

参議院選挙で審判を！「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

# ほっかいどうの社会保障

2013年7月3日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

生活保護の減額やめて 9月20日集団で不服審査請求

生活保護制度を良くする会・準備会 7月1日(月) 記者発表



7月1日、「生活保護制度を良くする会・準備会」は、8月からの生活保護基準引き下げの撤回を求めて、1000人規模で、不服審査請求を行うことなどを記者発表しました。

会のよびかけ人代表は、大橋晃・道社協会長(医師)、木下武徳北星大学社会福祉学部准教授、肘井博行・SOSネット北海道代表(弁護士)です。

当日は、4人の当事者が訴えました。すでに100人が不服審査請求の意向を固めています。

## 国が保障する生活水準を問いたい 目標1000件



会を代表して、事務局団体の北海道生活と健康を守る会連合会の三浦誠一会長が、不服審査請求など取り組みについて説明しました。

「生活保護基準が、今年8月、2014年4月、2015年4月と3段階で引き下げられます。中には生活扶助費が10%下がる世帯、4人家族で約2万円減の世帯や生活保護を利用できなくなる世帯も生まれ、札幌市の場合ほぼ全員が引き下げられます。また、就学援助や最低賃金、非課税基準の引き下げなど他制度にも影響する危険があります。国民の生活はますます大変になります。人間らしい生活の水準(ナショナルミニマム)を問い、宣伝、署名、不服審査請求を行うことにしました。全道で1000件(生活保護世帯の1%)をめざし、他の団体に呼びかけて、9月20日に、いっせいに不服審査請求を行う(第1次)ことにしています」

## 早速13人が電話で参加表明

新聞やテレビ報道を見て、道生連に20件以上の電話が寄せられ、13人が不服申請への参加を表明しています(札幌市をはじめ、旭川、苫小牧、小樽、富良野など)。

「署名に協力したい」「会に入りたい」「会費はいくら」などの電話も寄せられています。

事務局 電話 011-736-1722

## 当事者4人が訴え 深刻な生活実態や生活保護引き下げの影響・決意表明

### 病気療養中の息子さんと暮らす菊地蘭美さん



母子加算の元原告 今回は生活保護全体が下がると聞いてビックリしています。月1万円以上下がります。どうして生活していこうか、そればかり考えています。ただ、息子と笑って暮らしたいだけです。

### 2人の子と母と4人で暮らす須藤英未さん



月2万円弱減ります。期末一時扶助や冬季加算も減るので、どう冬をすごそうか今から不安です。同級生で生活保護を利用している人がいます。働きかけて、みんなで生活保護をよくするとりくみをしたいです。

### 精神障害を持つ伊藤勇人さん 夫婦で働き生保利用



20代に精神障害を発症、4年の入院後7年働きましたが再発(現在障害3級)。今は、妻と二人のパート収入(月11万円)で生活保護を利用しています。生活扶助の減額に加え、就労特別控除の廃止でさらに年収13万円減になります。

### 障害を持つお子さんと夫婦で暮らす梶谷浩史さん



難病で身体・精神障害を持つ子がいます。世話をしていた妻は昨年がんに罹りました。就職活動はしていますが、仕事は見つかりません。今でも冬は暖房を節約していますが、月1万6千円減(10%減)と大変です。

8月1日は、いっせい宣伝、夜は集会を予定しています。